

令和7年度分 事業所における自己評価総括表（障害児相談支援）

事業所名	子ども発達総合支援センター			
保護者評価 実施期間	令和 7年 12月 15日		～	令和 8年 1月 30日
保護者評価 有効回答数	対象者数	185人	回答者数	33人
職員評価 実施期間	令和 8年 1月 7日		～	令和 8年 1月 16日
職員評価 有効回答数	対象者数	8人	回答者数	8人
事業所向け自己評価 作成日	令和 8年 2月 27日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にしている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	困難ケースに対し、積極的に対応している	・市の公立施設としての性質から、民間事業所で対応が難しいケースにも柔軟に向き合っている。 ・市の関係機関(こども家庭センター、こども未来課、障がい福祉課、教育委員会等)との連携体制が整っている。	・関係機関等と連携するとともに、ケースワークスキルの向上を図っていく。 ・途切れのない支援体制を維持するため、引き続き、関係機関との連携と情報共有に努める。
2	機能が充実している	・センターの専門職員の知見を活かし、専門的な見地からの助言を得ている。 ・通所支援の利用時前後に面談や相談を行うなど、保護者の利便性を図っている。	・こどもの特性に合った最適な支援が提供できるよう、引き続き専門職員との連携を図っていく。 ・面談や相談等の日程調整は、保護者の希望に合わせ、柔軟に対応していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	公的施設の性質上、公平性や公共性が優先される一面がある	・困難ケースへの対応等、関係機関や利用者からの要望及び調整に、時間的心理的な負担が生じることがある。 ・予算上の制約から、状況に応じた柔軟な人員配置が難しい。	・公立施設としての公平性公共性を保ちながら、多様なニーズに限られた人材で柔軟に対応していく。